

# おひざのうえで 2024<sup>②</sup>

(副園長の子育て応援通信)

## 「こどもをまんやかに」

せんりひじり幼稚園 副園長 安達かえで



昨日で、15クラスのクラス懇談が終わりました。皆様お忙しい中ご出席いただきありがとうございました。

グループワークで出たご意見が、どれも素晴らしくて感動しました。子育てに困った時を乗り越えるアイデアもたくさん出ましたし、子どもの今の状況を理解していらっしゃる言葉も多々あって、保護者の皆様の意識が高いことに驚きました。雰囲気もとても良くて、笑顔でうなずきながら聞いていたり、時には一緒に涙したり、また、失敗談を笑い飛ばしていらっしゃるりと、心温まる時間でしたね。先輩ママからの、大変な時の乗り越え方や素敵な工夫、「今、子どもはこうだから……。」や「大丈夫、これから育つから。」の言葉に励まされ、安心された方も多かったのではないのでしょうか。「ママパパの子育てアイデア集」という本が出せるほど、アイデアの宝庫でしたね。

子育ては正解が見つかりにくいから悩みます。いろいろ試しているうちに解決することもありますよね。困ったことがあると、子どもの様子をよく見てどうやって関わろうか考えたりしますが、それは「答えは子どもの中にある」からです。私たちが保育計画を立てるときに、まず、一番大切なのはその時の子どもの育とうとしていることは何かを見ます。そこに合わせて計画を立てていかないと大人の都合の保育になってしまうからです。

そして、目の前の子どもの姿を肯定的にとらえるのは大切なことです。いつも園内研修の講師で来てくださる大妻女子大学の岡健先生は、「子どもの育ちは前にしか進みません。子どもが以前にはできていた何かができなくなったように見えるのであれば、それはそれまでにあった力が失われたり弱まったからではなく、子どもの中でなにかが育ったからと考えるべきです。そして今できない何かをできるようにしてほしいと思うのであれば、どういう力が身につけばそれができるようになるかを考えるべきです。」と言われます。

私たちは子どもの育ちを「足し算」で見えていくために、子どもを肯定的に見取るための「リフレーミング」をする研修をしてきました。子どものできないことを課題としてみるのではなく、やろうとしていること育とうとしている力をたくさん見つけてあげることで、今育っている力や次に育てたい力を伸ばす環境づくりや関わりをすることができます。

でも、子育ても保育も一人ではできません。大人同士が子どもをまんやかに共に支え合っていくことで子どもの育ちを支えることができます。今、世の中では、保護者会の集まりに否定的な意見があったり、PTA活動を無くしていくところもありますが、実は親同士が繋がるのが、子どもの育ちに有効であるという研究も多々あります。大切なのは、子どもをまんやかに「保護者同士が支え合う心持ち」と、保護者会のあり方なのではないのでしょうか。



年中組のアイスブレイク  
「猛獣狩り」も盛り上がりました